

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	講師	氏名	山下 万吉
調査研究課題	タブレット端末用映像展示アプリの開発					
調査研究組織	氏名		所属・職		専門分野	役割分担
	代表	山下万吉	造形デザイン学科・講師		映像デザイン	全体計画管理・実施、インターフェースデザイン
	分担者					
調査研究実績の概要	<p><本研究の目的> タブレット端末やスマホで映像を見ることが一般に普及してきたことと相まって、映像によるプロモーション効果の高さが改めて注目されている。映像を積極的にプロモーションに導入する（したい）企業や大学は増えているが、肝心のアプリが展示等での鑑賞を考慮していないため、使用者（展示の実行者、映像の鑑賞者）にとって、扱いづらいものとなっているのが現状である。 本研究の目的は、<タブレット端末での展示および鑑賞に特化した、汎用性のある映像展示用アプリケーションの開発>である。映像展示としての見栄えを備えつつ、誰でも簡単に扱えるインターフェースについて分析しつつ、開発を進めた。</p> <p><調査・研究計画> 本研究は以下の計画で進めた。 平成28年度：映像展示アプリのデザイン検討、制作、試作段階でのテスト使用 平成29年度：ベータ版の性能評価、修正、完成版の一般公開</p> <p>平成28年度の調査研究実績は次の通りである。次ページに詳細を記す。</p> <p>① 映像展示アプリのインターフェースデザインの検討 ② テスト版アプリの実制作 ③ 試作段階でのテスト使用</p> <p>①インターフェースデザインの検討 展示の実行者と映像鑑賞者、双方にとって扱いやすい仕組みやインターフェースデザインについて検討した。 現状のタブレット端末での展示用映像の視聴方法には、「映像の管理がしにくい」「展示を意識した見た目のデザインになっていないため、見栄えが良くない。また、各映像の説明キャプション（文字情報）を付けることが出来ない」など、様々な問題点がある。それらの問題に対して検討を進め、開発においては以下の点について対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞しやすい映像再生インターフェース → Youtube等、一般的に普及している動画共有及び視聴サービスを意識したインターフェース。 ・展示用として見栄えするトップ画面 → 作品一覧画面上部のヘッダ画像を変更可能。 ・映像の説明等、鑑賞者への説明キャプションの提示（キャプションの変更・管理機能） → 作品のキャプション画像、タイトルのほか、作者名や作品解説も入力可能とした。 ・映像のループ再生機能 → 一度再生すれば、再生が繰り返される仕様にした。 					

調査研究実績
の概要

②テスト版アプリの実制作

本研究で制作したアプリケーションはiOS アプリである。これは、タブレット端末市場において、出荷台数はiPad より android 端末の方が若干上であるが、本研究の研究者ならびに開発者の開発環境を考慮した上での選択である。

アプリ名：EX-VISION（エキシビジョン）

対応範囲：iOS10以上

プログラム制作：株式会社ワールドワイドシステム

映像データの転送はAirDrop を用いることを前提とした。AirDrop は、通信時に無線LAN と Bluetooth の両方をオンにしておくことで、Apple 製品同士でデータの転送がワイヤレスで行える機能である。容易に動画データをiPad に転送する手法として採用した。

③試作段階での性能評価

当社は試作段階のアプリのテスト使用を行う計画であった。具体的には、本学内における映像作品の展示（デザイン学部卒業制作展等）での試用を検討していたが、プログラム開発の遅れにより、年度内の試用が実施出来なかった。ただし開発中には、本研究の研究者並びに開発者間で様々な状況での使用を想定した試用を繰り返し、アプリの仕様に反映させた。

<今後の方針>

平成28年度は当初の計画通り、テスト版アプリの開発まで進めることが出来た。これをもとに、平成29年度では、映像プロモーション導入に積極的な岡山県内企業を対象としたテスト版の性能評価、評価結果をもとにした修正・機能追加を行う予定である。

なお、この研究についての内容は、日本デザイン学会第64回春季研究発表大会で発表を行う予定である。また、本学での広報関係の業務（オープンキャンパス、進学ガイダンス、デザイン学部卒業制作展、国際交流展示等）において、積極的に活用していく。

検証結果を考慮しつつ、修正を加えながら、最終的には完成版のWeb 上での一般公開を目標に研究を継続する。